
山崎 大介 (やまざき だいすけ)



【書名】 もものかんづめ

【著者】 さくらももこ

【発行】 集英社 (集英社文庫)

日曜日の午後6時と言うと、テレビアニメの「ちびまる子ちゃん」を連想する人が多いかもしれない。これはさくらももこさんの漫画を原作とするものであり、この作者が日常生活において体験した出来事などをエッセイとして面白おかしく描出したのが『もものかんづめ』である。何かと忙しい時間を過ごす今日この頃かもしれないが、そんな時には一息ついて、この本を読んでみることもまた人生である。きっと一時の安らぎを得ることができるだろう。

【書名】 クマのプーさん

【著者】 A. A. ミルン (石井桃子 訳)

【発行】 岩波書店 (岩波少年文庫)

クマのぬいぐるみであるプーさんが擬人化されており、空想の世界における話である。この本を読むきっかけは、英語の授業中にクマのプーさんに関する話題があったが、この世界一有名と言われる「クマ」のことについて詳しく知らなかったため、とりあえずどんなものか読んでみようとなったことである。あまり難しいことを考えずに、読んでみるのもよいかもしれない。そして、この作品を読み終えたら、以下の原作 (英語版) に挑戦することをおすすめする。

【書名】 Winnie-the-Pooh

【著者】 A. A. Milne

【発行】 Puffin Books

上述した『クマのプーさん』の原作である。英語を学習する人にとって、全て英語で書かれた本を読むのは多少勇気がいることかもしれない。ひとつひとつの壁を乗り越えてこそ、語学力が向上していくのではないだろうか。理解できない、発音できない単語などがあったら辞書で調べればよい。毎日

少しでもよいので英語に触れる時間を大切にしてほしい。それが習慣になれば素晴らしいことだ。

【書名】 はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける

【著者】 西部直樹

【発行】 あさ出版

ディベートの基本的なところを知ることが出来る。普段、あまりディベートを行う機会はないかもしれないが、論理的思考能力やコミュニケーション能力などを高めるためにディベートが役立つかもしれない。また、昨今では、就職試験などにおいてディベート形式のグループディスカッションを行うこともあるようで、そうした対策にもなるだろう。いずれにしても、実際にディベートを体験してみることをおすすめする。